

平成 24 年 4 月 16 日

「第 27 回東京大学工学部・工学系研究科技術発表会」の

特集「技術の創意工夫」の募集について

第 27 回東京大学工学部・工学系研究科技術発表会
実行委員長 中村光弘

工学部・工学系研究科においては、本年度も「東京大学工学部・工学系研究科技術発表会」の開催を予定しております。つきましては、発表会の準備をよりスムーズに行うためと、より多くの技術系職員および教職員、学生、院生、学内外の皆様のご参加をいただくために、本年は開催のお知らせとは別に、本年の技術発表会の「特集」のタイトルを皆様にお知らせ致します。

本年度の技術発表会では『技術の創意工夫』を特集致します。大学においては技術の創意工夫は非常に重要であり、技術は研究・教育に大きな役割を果たしていると自負しております。技術職員の仕事は多岐にわたり研究、教育、新しい装置の試作・設計・開発、ネットワーク技術の構築、実験装置の維持管理、安全管理等を支えており簡単に書き表すことはできません。すべてに共通していることは、それぞれの仕事に、よりよく測定するための方法・工夫・改良・改善等が隠れています。また、ユニークで新しい考えなどもあると思います。それらを可能な限りで構いませんので公開してはいただけないでしょうか。

具体的なイメージは、例えば 1) 機械工作の作業を行っている場合に、今までの作業方法ではうまくできない事がある。そのような時に、自分でジグなどを作製するなどの工夫をしたらうまく加工ができた。2) 市販されてはいるが、自分の実験目的には少し合わないので、自分自身で自作製作し、その温度特性等の測定を行った結果、うまくデータが採取できた。3) 実験装置や共通実験室の管理をノートに残しているが、Visual Basic 等を用いて専用の管理ソフト開発を行った。4) 学生実験の説明を印刷物を配布するなどを行っているが、視聴覚説明のためのソフト開発を行い、学生の理解度を深めた。など多くの技術の創意工夫がこれまでの技術報告にあります。今回の特集によってそれらを集めてみたいと思います。

私は実験系の専攻に所属し、電子顕微鏡技術やそれに関わる分析技術しかわかりませんが、多くの技術職員がそれぞれの職場で技術の創意工夫を行っていることは容易に想像できます。とくに実験系では測る、見る、検証するなどの作業が日常的に行われていますが、研究者は大変多忙で意外と測ることや検証するための、いろいろな装置ごとの簡単な工夫等を行う時間がないのが現状です。逆にいえば、そのような場所に技術職員の大きな役割があり、実際に技術職員の方たちが大きな役割を果たされています。それらの技術を技術報告に発表し、多くの人たちに知ってもらうことが非常に重要なことです。技術発表会実行委員会では、発表会終了後、技術部HPで技術報告を公開しておりますが、本学以外の方から自分自身の仕事に本学及び他大学の技術報告の技術のノウハウを参考にしていると直接伺っております。意外と技術のノウハウは公開されてはいません。技術報告が多くの方の役に立れば大変嬉しく思います。できるだけ多くの技術職員が発表していただけることを期待しております。

学内外の皆様の興味を引くためにも多くの方がご参加していただけるように願っております。

以上